

三重県埋蔵文化財センター 平成28年度刊行物

刊行物 総数 9件

発掘調査報告書	5件
発掘調査概要報告	1件
年報	1件
ニュース・パンフレットほか	2件

PDFを公開しているものについてはインターネット上で閲覧することができます。
「所蔵品・図書」内の「図書の詳細検索ページ」で、ご覧になりたい書名を検索してください。

番号	書名	所収遺跡名	頁数	データサイズ	発行年月
323-5	北山A遺跡(第2・3・5・6次)発掘調査報告	北山A遺跡(四日市市)	188	208MB	H29.3
370	中坪遺跡(第1次)発掘調査報告	中坪遺跡(松阪市)	260	59.9MB	H29.3
371	市場庄遺跡発掘調査報告	市場庄遺跡(松阪市)	120	370MB	H29.3
372	大久保遺跡(第3次)発掘調査報告	大久保遺跡(菟野町)	120	271MB	H29.3
373	野添大辻遺跡(第4次)発掘調査報告	野添大辻遺跡(大紀町)	34	56.1MB	H29.3
6	近畿自動車道名古屋神戸線(四日市JCT~亀山西JCT)建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報VI	北山A遺跡, 小牧南遺跡, 鈴山遺跡, 釜垣内遺跡, 小社遺跡, 北山C遺跡, 高ノ瀬遺跡 (桑名市・四日市市・鈴鹿市・菟野町)	52	112MB	H28.10
-	平成27年度三重県埋蔵文化財年報		72	17.5MB	H28.12
26	菟野のあけぼの 第3号 鈴山遺跡(第3次)現地説明会資料	鈴山遺跡(菟野町)	4	155MB	H28.9
1	東海環状自動車道発掘調査だより いなべ編No. 1	四辻遺跡(いなべ市)	4	232MB	H28.9

報告書抄録

ふりがな	きたやまえーいせき(だいに・さん・ご・ろくじ) はつくつちようさほうこく							
書名	北山A遺跡(第2・3・5・6次)発掘調査報告							
副書名								
巻次								
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	323-5							
編著者名	櫻井拓馬・服部芳人・宮崎久美・森川常厚							
編集機関	三重県埋蔵文化財センター							
所在地	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503			TEL 0596-52-1732				
発行年月日	2017(平成29)年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
きたやまえーいせき 北山A遺跡	よつかいちしきたやまちょう 四日市市北山町	24202	239	35° 2' 55"	136° 35' 22"	20110425 ～20111222	第2次調査 3,760	近畿自動車道名古屋神戸線(四日市JCT～亀山西JCT)建設事業
						20120518 ～20130225	第3次調査 4,130	
						20130510 ～20140224	第5次調査 4,920	
						20140623 ～20140806	第6次調査 756	
						計		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
北山A遺跡	集落跡	縄文	土器棺墓1基		縄文土器(晩期)		長径2m以上の大型土坑を伴う集落	
		古墳末 ～奈良前	竪穴住居49棟 掘立柱建物18棟 大型土坑40基		土師器・須恵器・製塩土器			
		平安前	大型土坑1基		灰釉陶器・土管			
要約	縄文時代晩期の土器棺墓1基、平安時代前期の集石を伴う大型土坑1基の他は、古墳時代末～奈良時代前半のいわゆる飛鳥時代を中心とする約100年間に存続した集落跡である。竪穴住居や掘立柱建物の配置に規則性はなく、一般的集落と考えられるが、大型土坑を伴う特徴をもつ。大型土坑の平面形は多様であるが、長径2mを測る円形にちかいものから長径6mを超える長円形のものも複数ある。底部は平坦で、遺物の出土は概して少ない。							

報告書抄録

ふりがな	なかつぼいせき(だい1じ)はくつちょうさほうこく							
書名	中坪遺跡(第1次)発掘調査報告							
副書名								
巻次								
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	370							
編著者名	小原雄也							
編集機関	三重県埋蔵文化財センター							
所在地	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503 TEL 0596(52)1732							
発行年月日	2017(平成29)年3月22日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なかつぼいせき 中坪遺跡	まつさかし たつ た ちょう 松阪市立田町	204	a 907	34度 33分 58秒	136度 34分 24秒	20130510 ~ 20140212	1,955m ²	高度水利機能確保 基盤整備事業 (朝見上地区)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
中坪遺跡	集落跡	奈良~戦国	井戸・土坑・溝		土器・陶磁器・石製品・ 金属製品・木製品			
要約	<p>中坪遺跡は櫛田川左岸の低地に位置する。調査は事業地内の2カ所で行われ、奈良時代前期~江戸時代の遺構を確認した。A区の主な遺構は平安時代後期~鎌倉時代の井戸5基、室町時代~戦国期の井戸5基である。平安時代末期~鎌倉時代の井戸から完形の山茶碗と共に馬の歯が出土したことが特筆される。B区の主な遺構は、奈良時代~平安時代の井戸2基、平安時代末期~鎌倉時代の井戸4基、幅1.5m以上の大溝1条、室町時代~戦国期の井戸23基、大溝3条、区画溝2条である。特に奈良時代~戦国期までの井戸が多く確認されたことで、井戸構造の変遷を考察できた。変遷の大枠は横板組(奈良時代)、縦板・横板組(平安時代)、縦板組(鎌倉時代)、石組・結物(鎌倉時代)、結物(鎌倉~戦国期)である。また、特徴的な遺物は奈良時代の横板組井戸出土の土師器甕3点、須恵器長頸壺、斎串2点が挙げられる。</p> <p>自然科学分析は樹種同定、獣骨同定を行い古環境に関する資料を得た。特に樹種同定の分析では、中坪遺跡を含む朝見上地区の遺跡において、木製品は奈良時代~中世前期ではスギが多く、中世後期にはヒノキ・ヒノキ科が優位になると共にコウヤマキが急増することが判明した。さらに、奈良時代~江戸時代における伊勢湾西岸域の遺跡の樹種変遷も合わせて分析した結果、伊勢地域では中世前期までスギが優位であり、中世後期にはヒノキ・ヒノキ科が優位になることが判明した。中坪遺跡における樹種の変遷は、中世後期の伊勢湾西岸域における都市・湊津の発展と木材流通との関連が想定された。</p>							

報告書抄録

ふりがな	いちばしょういせきはつくつちょうさほうこく							
書名	市場庄遺跡発掘調査報告							
副書名								
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	371							
編著者名	嶋田 元彦 谷口 文隆							
編集機関	三重県埋蔵文化財センター							
所在地	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503 TEL 0596-52-1732							
発行年月日	西暦2017年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
いちばしょういせき 市場庄遺跡	みえけんまつさかしろつけんちやう 三重県松阪市六軒町	24204	a 578	34° 36' 44"	136° 30' 36"	20150527 ~ 20151013	820	二級河川三渡川 河川改修事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
市場庄遺跡	集落跡	江戸時代	掘立柱建物 土坑 溝 小穴		土師器 陶器 磁器 銭貨		二面調査	
要約	調査区は三渡川右岸にあり、伊勢街道と初瀬街道の合流地点にあたる。2面調査により17世紀末から18世紀前葉の遺構面と、18世紀中葉から後葉の遺構面を調査した。検出した遺構には1面目、2面目合わせて埋甕が14基、2面目において掘立柱建物1棟、145kgのアカガイ貝殻がみつかった土坑SK240がある。遺物としては、陶磁器のセットものや大皿、銭貨98枚（確認できたものは全て「寛永通寶」）、雁首銭、煙管、泥面子（芥子面）がある。また2面目上層に確認できた焼土層は、ほぼ調査区全面に広がっており、調査区において火災があったことが考えられる。							

三重県埋蔵文化財調査報告 371

市場庄遺跡発掘調査報告

2017(平成29)年3月

編集 三重県埋蔵文化財センター
発行
印刷 文化印刷株式会社

報 告 書 抄 録

ふりがな	おおくほいせき (だいさんじ) はくつちょうさほうこく							
書名	大久保遺跡 (第3次) 発掘調査報告							
副書名								
巻次								
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	372							
編著者名	石井智大・中井英幸							
編集機関	三重県埋蔵文化財センター							
所在地	〒515 - 0325 三重県多気郡明和町竹川503 Tel.0596 - 52 - 1732							
発行年月日	2017年3月17日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおくほいせき 大久保遺跡 (第3次)	みえけんみえぐん 三重県三重郡 こものちゅうるだ 菰野町潤田	24341	85	35° 01' 33"	136° 30' 25"	2015/8/7～ 2015/12/7	1,832	平成27年度一般国道477号線四日市湯の山道路整備(改築)事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
大久保遺跡 (第3次)	集落跡	縄文時代		縄文土器・石器				
		平安時代 鎌倉時代	掘立柱建物 柱列 土坑 溝	土師器・黒色土器・ 山茶碗・陶器・砥石				
要旨	<p>平安時代末から鎌倉時代前期にかけての掘立柱建物、溝、土坑などが検出された。掘立柱建物のうち2棟は大型の総柱建物である。この2棟の建物の内部からは土坑が検出されている。溝には排水を目的に掘られたと考えられるものがあり、調査区西側の落ち込みに向かって急激に深くなる。この溝は、集落における区画の役割を果たしていた可能性もある。遺物としては、土師器、黒色土器、山茶碗、陶器、砥石などが出土した。</p> <p>当遺跡付近には「潤田御厨」という伊勢神宮の神領が置かれていたとされるが、実態は不明である。集落の消長や立地などを踏まえると、今回の調査で検出された集落は中世前期の土地開発と関わる集落と推定され、潤田御厨とも何らかの関係があった可能性が考えられる。</p> <p>また、縄文時代後期から晩期にかけての土器や石器も出土している。ただし、縄文時代に属する明確な遺構は確認できなかった。</p>							

報告書抄録

ふりがな	のぞえおおつじいせき (だい4じ) はつくつちょうさほうこく							
書名	野添大辻遺跡 (第4次) 発掘調査報告							
副書名								
巻次								
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	373							
編著者名	渡辺和仁							
編集機関	三重県埋蔵文化財センター							
所在地	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503 TEL 0596 (52) 1732							
発行年月日	2017(平成29)年3月3日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
のぞえおおつじいせき 野添大辻遺跡	みえけんわたらいぐん 三重県度会郡 たいきちやうのぞえ 大紀町野添	市町村	遺跡番号	34度 24分 58秒	136度 29分 08秒	20161107 ～ 20161111	工事立会 80m ²	主要地方道 伊勢大宮線 (野添)地方 道路整備 (改築)事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
野添大辻遺跡	集落跡	中世	井戸・土坑	土師器・陶器				
要 約	<p>野添大辻遺跡は宮川右岸の段丘上に立地し、遺跡の中央には中世～近世の熊野脇道（滝原道）が貫いている。当遺跡では、主要地方道伊勢大宮線（県道38号線）の道路拡幅工事に伴い、平成26年度までに第1～3次にわたる発掘調査が行われており、本調査は第4次調査にあたる。</p> <p>本調査は、第3次調査で調査ができなかった部分を道路本体工事の施工に合わせて実施した。</p> <p>確認した遺構は、戦国期の井戸1基、時期不明の土坑5基、落ち込み状の遺構2基、多数のピットである。井戸からは井戸枠を確認することができず、埋土からはチャートや砂岩の石材が土中に入り乱れた状況で出土した。石材の出土状況から、井戸枠の石組が崩落してしまったものと考えられる。出土した南伊勢系土師器や瀬戸美濃産・常滑産の陶器から、井戸の時期は16世紀前半頃と考えられる。また、遺物包含層からは室町時代を中心とする南伊勢系土師器の破片が出土した。当遺跡における中世集落の一端を本調査で改めて確認することができた。</p>							

三重県埋蔵文化財調査報告 373

野添大辻遺跡 (第4次) 発掘調査報告

2017 (平成29) 年3月

編集・発行 三重県埋蔵文化財センター

印刷 共立印刷株式会社

報告書抄録

ふりがな	きんきどうしゃどうなごやこうべせん（よっかいちじゃんくしよんからかめやまにしじゃんくしよん）けんせつじぎょうにともなうまいぞうぶんかざいはつくつちようさがいはう ろく							
書名	近畿自動車道名古屋神戸線（四日市JCT～亀山西JCT）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報VI							
副書名								
巻次								
シリーズ名	近畿自動車道名古屋神戸線（四日市JCT～亀山西JCT）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報							
シリーズ番号	VI							
編者名	服部芳人・松永公喜・浅野隆司・谷口隆亮・宮崎久美・大川操・水橋公恵・中村法道・勝山孝文・西脇智広・村上央							
編集機関	三重県埋蔵文化財センター							
所在地	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503 TEL 0596-52-1732							
発行年月日	西暦2016（平成28）年10月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
きたやましーいせき 北山C遺跡	くわなしち 桑名市志知	24205 a	154	35° 2′ 54″	136° 36′ 13″	20150605 ～ 20151211	第6次調査 2,423	近畿自動車道 名古屋神戸線 （四日市JCT ～亀山西 JCT） 建設事業
	よっかいちししおおがねちよう 四日市市西大鐘町	24202	241	35° 2′ 47″	136° 35′ 48″	20151019 ～ 20151022	一次調査 216	
こまきみなみいせき 小牧南遺跡	よっかいちしこまきちよう 四日市市小牧町	24202	568	35° 2′ 31″	136° 33′ 58″	20150605 ～ 20160118	第3次調査 5,935	
すずやまいせき 鈴山遺跡	こものちようおとわ 菰野町音羽	24341	136	35° 1′ 28″	136° 29′ 52″	20150527 ～ 20151207	第2次調査 6,256	
たかのせいせき 高ノ瀬遺跡	すずかしやまもとちよう 鈴鹿市山本町	24207	1342	34° 57′ 41″	136° 27′ 48″	20150421 ～ 20150423	一次調査 400	
						20150707 ～ 20150709	一次調査 208	
						20151005 ～ 20151007	一次調査 240	
こやしろいせき 小社遺跡	すずかしこやしちよう 鈴鹿市小社町	24207	1153	34° 57′ 8″	136° 27′ 24″	20160112 ～ 20160204	第4次調査 362	
かまがいといせき 釜垣内遺跡	すずかしおぎすちよう 鈴鹿市小岐須町	24207	1032	34° 56′ 57″	136° 27′ 10″	20150527 ～ 20151218	第5次調査 3,644	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
北山C遺跡	散布地	古墳・弥生	古墳・土塚墓		須恵器（甕・ハソウ・杯など）・土師器（甕・高杯）		古墳は西山古墳として登録	
小牧南遺跡	集落跡	縄文・弥生・古墳・飛鳥・中世	竪穴住居・掘立柱建物・埋設土器・集石炉・土坑・火葬墓		縄文土器・古式土師器（高杯・壺・甕・器台）、無釉陶器（山皿）、石器（石鎌・石斧・磨石・石皿・搔器）、砥石			
鈴山遺跡	集落跡	縄文	煙道付炉穴・集石炉・竪穴住居・掘立柱建物・大型土坑・落とし穴		縄文土器（中期）・石器（石鎌・石斧・磨石・石錘）			
高ノ瀬遺跡	包蔵地	鎌倉	なし		土師器			
小社遺跡	集落跡	中世・近世	土坑・川跡・柱穴		土師器（皿・羽釜）、陶器、土師質甕			
釜垣内遺跡	集落跡	縄文・奈良・平安・中世	土坑・溝・自然流路・石溜・掘立柱建物		縄文突帯深鉢・製塩土器・土師器・須恵器・山茶碗・灰釉陶器・黒色土器・炭化種子・鉄器・石鎌・砥石			

要約	<p>【北山C遺跡】 桑名市南部を流れる員弁川の南岸、四日市市にかけて広がる丘陵上に位置する。今回の調査区は、第2次東区、第3、4、5次調査区の南端と隣接する。調査の結果、新たに8基の方墳と2基の円墳を確認した。墳丘は削平され、大半の古墳は周溝を残すのみであったが、1基で主体部が残存していた。他の古墳においても周溝埋土から5世紀代の須恵器と土師器が出土した。また、古墳時代の土壇墓2基と縄文時代の落とし穴2基を確認した。</p>
	<p>【北山C遺跡】 36箇所の調査坑を設けて調査を行った。その結果、概ね調査区の中央で、溝・ピット・土坑を確認した。遺物が出土しておらず、時期ははっきりしないが、昭和50～60年代に行われた発掘調査結果から判断する、遺跡範囲の西端に当たり、このあたりまで古墳時代の集落が存在すると判断した。（一次調査）</p>
	<p>【小牧南遺跡】 今回の第3次調査では、現地は水田および畑地であり北に緩やかに傾斜する丘陵端部に形成された平坦面で調査を行った。確認できた主な遺構は、縄文時代中期の竪穴住居4棟・掘立柱建物3棟・埋設土器4基・集石炉1基、弥生時代終末期～古墳時代前期の竪穴住居21棟・掘立柱建物1棟、中世の土坑1基・火葬墓2基である。遺構検出面はシルト質が主体であるが、段丘礫が露出するような箇所も多くみられた。特に丘陵南西～西側は礫の包含率が高く、遺構もほとんど認められなかった。なお、縄文時代中期の掘立柱建物群は、現在確認されている県内最古の掘立柱建物となる。</p>
	<p>【鈴山遺跡】 三滝川上流北岸の音羽集落南側にある縄文時代の遺跡である。調査の結果、縄文時代早期の煙道付炉穴9基、集石炉2基、縄文時代中期の竪穴住居8棟、掘立柱建物6棟、大型土坑2基のほか、陥し穴（縄文土器を含む）7基を確認した。なお、縄文時代中期の掘立柱建物群は県内最古であり、北勢地域における縄文時代中期の実情を知る上で重要な遺跡となる。遺物は、縄文時代中期の土器片や石鏃、石斧、石錘などが出土した。</p>
	<p>【高ノ瀬遺跡】 鈴鹿市山本町字高ノ瀬に位置し、扇状地の扇端、標高159～162mに位置する。幅2mの調査トレンチを14本（T30～T43）設定して行った。一部のトレンチでは、黒ボクの下で、安定した黄褐色シルトの遺構検出面を確認したが、遺構は検出されず、遺物も土師器小片が少量出土したにとどまる。（一次調査）</p>
	<p>【小社遺跡】 鍋川北岸に位置する。現況は標高151～153mの北から南に向かって傾斜する扇状地に立地し、現況は畑地である。調査の結果、近世以降と考えられる石列や土坑（埋甕）・川跡・柱穴を確認した。遺物は土師器片（皿・羽釜）、常滑産陶器片（甕・鉢等）、および土師質甕が出土している。</p>
<p>【釜垣内遺跡】 御幣川と鍋川に挟まれた、扇状地に立地する。標高は153m前後で、南東の御幣川方面に向かって緩やかに南傾する。調査の結果、4次東調査区で見つかった川跡の延長が、約75m検出され、4次東区から南流してきた川が調査区南端で緩やかに南東方向へ進路を変えることがわかった。この川の進路が変化した右岸には、多くの柱穴が検出されるとともに、焼土や炭を伴う土坑が複数確認された。これらの焼土土坑には製塩土器を伴伴するものもある。縄文時代の石鏃が出土したほか、突帯文深鉢を埋納したとみられる土坑1基を確認している。</p>	